科目名（Eng）	社会科学Ⅱ（Invitation to Social Scienes Ⅱ）								
担当教員	川﨑 俊郎								
対象学年等	学科・専攻	学年	授業期間	区分	単位数	時間数	分野	形態	学修単位科目
	一般科目コミ科	2	後期	必修	1	30	一般	B	

目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：(A-1)．(A-2)．(A-3)．(A-4)．(A-5)．
	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：1)．
授業の概要と方針	産業革命以降の世界の歴史を、経済を中心に学習する。
到達目標	①資本主義の発達史を理解する。 ②資本主義社会に対応した企業の発達史を理解する。 ③世界経済におけるヘゲモニーの推移を理解する。

授業計画

	週	授業項目	理解すべき内容	事前学習
後期	16	産業革命１	商業革命、産業革命の前提条件	①配布プリントの次回分を読んでおく。 ②授業内容のまとめをやっておく。
	17	産業革命２	産業革命の内容、産業革命の影響	
	18	資本主義	アダム・スミスの経済思想	
	19	第二次産業革命	第二次産業革命の特徴、工業国の変化	
	20	企業社会の登場	近代的企業、水平統合と垂直統合 アメリカ企業の特徴	
	21	資料演習１	統計数値の読み取り	
	22	第一次世界大戦	帝国主義の限界、経済面から見た総力戦	
	23	社会主義	マルクスの経済思想、資本主義との比較	
	24	大恐慌	大恐慌の原因、大恐慌の影響	
	25	修正資本主義	ニューディール政策の内容と効果 ケインズの経済思想	
	26	資料演習２	統計数値からのグラフの作成と読み取り	
	27	第二次世界大戦	ブロック経済、保護貿易と自由貿易	
	28	パクスアメリカーナ	アメリカの経済政策、米企業の多国籍化	
	29	基軸通貨ドルの動揺	石油ショック、日米欧の関係の変化	
	30	世界経済を見る眼	授業の総まとめ	試験の見直しをしておく。

試験について	中間試験は実施しない。期末試験は試験期間中に50分で実施する。ただし、再試験の受験は、定められた期限内に課題を提出した者のみに認める。
評価方法	定期試験60%、課題を40%として評価する。
教科書	授業時に配布するプリントを教科書の代わりとする。
参考書	飯田　隆(2005)『図説　西洋経済史』(2005)、日本経済評論社
関連科目	人文科学ⅠおよびⅡ
履修上の注意	授業は配布プリントを中心に進めるので、必ずファイルする。また課題・レポートは期限・様式などを厳守する。